

参考文献(副読本リスト)

注：◎は研修前に一読しておくことが望ましい書、*は絶版または入手困難な書

分野	No.	著書	著者	出版社	備考
森づくり	1	森林法 解説	森林・林業基本政策研究会	大成出版	◎
	2	森林経営計画ガイドブック 「平成26年度改正」対応版	森林計画研究会 編	全国林業改良普及協会	◎
	3	森づくりの心得 森林のしくみから施業・管理・ビジョンまで	藤森隆郎	全国林業改良普及協会	
	4	森林管理の理念と技術 ー森林と人間の共生の道へー	山田容三	昭和堂	◎
	5	主張する森林施業論	森林施業研究会	日本林業調査会	◎
	6	森林生態学 持続可能な管理の基礎	藤森隆郎	全国林業改良普及協会	
	7	林業改良普及双書 No.163 間伐と目標林型を考える	藤森隆郎	全国林業改良普及協会	
	8	新たな森林管理 持続可能な社会に向けて	藤森隆郎	全国林業改良普及協会	
	9	「なぜ3割間伐か？」林業の疑問に答える本	藤森隆郎	全国林業改良普及協会	
	10	日本林業はよみがえる ー森林再生のビジネスモデルを描くー	梶山恵司	日本経済新聞出版社	
	11	写真解説 山の見方 木の見方 森づくりの基礎を知るために	大橋慶三郎	全国林業改良普及協会	
	12	林業改良普及双書 No.172 低コスト造林・育林技術最前線	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	
	13	林業改良普及双書 No.173 将来木施業と径級管理 その方法と効果	藤森隆郎 編著	全国林業改良普及協会	
	14	林業改良普及双書 No.174 林家と地域が主役の「森林経営計画」	後藤國利・藤野正也	全国林業改良普及協会	
	15	林業改良普及双書 No.178 コンテナ苗 その特長と造林方法	山田 健、ほか共著	全国林業改良普及協会	
	16	森林生態学	正木、相場	共立出版	
	17	ドイツ林業と日本の森林	岸 修司	築地書館	
	18	先進国型林業の法則を探る 日本林業成長へのマネジメント	相川高信	全国林業改良普及協会	
	19	長伐期林の実際 その効果と取り扱い技術	桜井尚武 編著	林業科学技術振興所	
	20	鋸谷式間伐 実践編 なるほどQ&A 森林の健全度を高めよう	鋸谷 茂 編著	全国林業改良普及協会	
	21	森づくりの原理・原則 自然法則に学ぶ合理的な森づくり	正木 隆	全国林業改良普及協会	
	22	林業改良普及双書 No.152 森をささえる土壌の世界	有光一登	全国林業改良普及協会	
	23	美しい森をつくる	速水 勉	日本林業調査会	
	24	ヨーロッパの森林管理 ー国を超えて・自立する地域へー	石井 寛・神沼公三郎	日本林業調査会	
	25	森林リモートセンシング	加藤正人	日本林業調査会	
	26	森のスケッチ	中静 透	東海大学出版会	
	27	林業改良普及双書 No.145 森の時間に学ぶ森づくり	谷本文夫	全国林業改良普及協会	
	28	水辺林管理の手引き ー基礎と指針と提言	溪畔林研究会	日本林業調査会	
	29	樹木学	ピーター・トーマス (熊崎実他訳)	築地書館	
	30	日本列島の誕生	平 朝彦	岩波新書	
	31	日本の山と高山植物	小泉武栄	平凡社新書	
	32	林業改良普及双書 No.126 樹木の世界	渡邊定元	全国林業改良普及協会	
	33	森林における生物多様性の保全及び持続可能な利用の 推進方策について	森林における生物多様性保全の 推進方策検討会	林野庁ホームページ	◎
	34	広葉樹林ハンドブック2010	「広葉樹林化」研究プロジェクト チーム	(独) 森林総研ホームページ	
	35	広葉樹林ハンドブック2012	「広葉樹林化」研究プロジェクト チーム	(独) 森林総研ホームページ	
	36	恒続林思想	アルフレート・メーラー	都市文化社	*
	37	緑化木・林木の虫害	小林富士雄	(株) 養賢堂	*
	38	木材とお宝植物で収入を上げる 高齢里山林の林業経営術	津布久 隆	全国林業改良普及協会	
	39	林業改良普及双書 No.184 主伐時代に備えるー皆伐施業ガイドラインから再造林まで	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	

分野	No.	著書	著者	出版社	備考
道づくり	40	これだけは必須！道づくり技術の実践ルール 路網計画から施工まで	湯浅 勲・酒井秀夫	全国林業改良普及協会	◎
	41	実践経営を拓く 林業生産技術セミナー 伐出・路網からサプライチェーンまで	酒井秀夫	全国林業改良普及協会	◎
	42	世界の林道(上・下巻)	酒井秀夫・吉田美佳	全国林業改良普及協会	
	43	作業道セミナー	酒井秀夫	全国林業改良普及協会	◎
	44	作業道 路網計画とルート選定	大橋慶三郎	全国林業改良普及協会	
	45	大橋慶三郎 道づくりのすべて	大橋慶三郎	全国林業改良普及協会	
	46	図解 作業道の点検・診断・補修技術	大橋慶三郎	全国林業改良普及協会	
	47	写真図解 作業道づくり	大橋慶三郎・岡橋清元	全国林業改良普及協会	◎
	48	現場図解 道づくりの施工技術	岡橋清元	全国林業改良普及協会	
	49	森林作業道づくり	フォレストサーベイ	フォレストサーベイ	◎
	50	図解 これならできる 山を育てる道づくり	大内正伸	農文協	
	51	平成23年版 治山林道必携 一調査・測量・設計編		日本治山治水協会/ 日本林道協会	
	52	平成24年版 治山林道必携 積算・施工編		日本治山治水協会/ 日本林道協会	
	53	森林土木製構造物施工マニュアル (平成22年版)		日本治山治水協会/ 日本林道協会	
	54	森林土木工事における施工工夫事例集		全国森林土木建設建設協会	
	55	森林土木工事安全施工技術マニュアル		全国森林土木建設建設協会	
56	自然に適合した工法「河岸及び河岸斜面の保護」		リバーフロント整備センター		
機械化 作業システム	57	泉社長が語る 伐出ひとすじ現場の流儀	泉 忠義	全国林業改良普及協会	
	58	機械化のマネジメントー地域の経営力アップのために 高性能林業機械をどう活かすか	辻井辰雄 他	全国林業改良普及協会	
	59	林業改良普及双書 No.106 機械化林業への取り組み	速水 亨	全国林業改良普及協会	
	60	路網と高性能林業機械を組み合わせた 低コスト作業システム導入マニュアル	(社)日本森林技術協会	(社)日本森林技術協会	*
61	林業現場人 道具と技 Vol.14 特集 搬出間伐の段取り術	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会		
提案型集約化 施業	62	森林施業プランナーテキスト基礎編	藤森 隆郎(ほか8名)	森林施業プランナー協会	◎
	63	間伐生産性・コスト分析シート 使い方マニュアル	全国森林組合連合会	全国森林組合連合会	◎
	64	実践マニュアル 提案型集約化施業と経営	湯浅 勲 編著	全国林業改良普及協会	
	65	湯浅勲の林業実践問答 集約化の壁はこうしてブチ切れ	湯浅 勲	全国林業改良普及協会	
	66	林業改良普及双書 No.166 普及パワーの施業集約化	林業普及指導員・全林協 編著	全国林業改良普及協会	
	67	いざ実践！ 森林境界明確化 問題のとらえ方と解決の仕方	竹島喜芳	全国林業改良普及協会	
	68	林業GPS 徹底活用術	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	
	69	続・林業GPS 徹底活用術 応用編	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	
	70	DVD付き フリーソフトでここまで出来る 実務で使う林業GIS	竹島喜芳	全国林業改良普及協会	
	71	林業改良普及双書 No.162 森林の境界確認と団地化	志賀和人 編著	全国林業改良普及協会	
72	林業再生の決め手！ 生産性を向上させる80カ条	坪野克彦 編著	全国林業改良普及協会		
73	提案型集約化施業のカンどころ	坪野克彦	全国林業改良普及協会		
木材	74	林業改良普及双書 No.165 変わる住宅建築と国産材流通	赤堀楠雄	全国林業改良普及協会	
	75	有利な採材・仕分け 実践ガイド	赤堀楠雄 編著	全国林業改良普及協会	
	76	山を豊かにする木材の売り方 全国実践例	遠藤日雄・林業普及指導員 編著	全国林業改良普及協会	
	77	林業改良普及双書 No.179 スギ大径材利用の課題と新たな技術開発	遠藤日雄、ほか共著	全国林業改良普及協会	
	78	林業改良普及双書 No.180 中間土場の役割と機能	遠藤日雄、酒井秀夫、ほか共著	全国林業改良普及協会	
	79	林業改良普及双書 No.181 林地残材を集めるしくみ	酒井秀夫、田内裕之、ほか共著	全国林業改良普及協会	
	80	林業改良普及双書 No.182 木質バイオマス熱利用でエネルギーの地産地消	相川高信、伊藤幸男、ほか共著	全国林業改良普及協会	
	81	今さら人には聞けない木のはなし	林 知行	日刊木材新聞社	
	82	国産材はなぜ売れなかったのか	荻 大陸	日本林業調査会	
	83	丸太価格の暴落はなぜ起こるか 原因とメカニズム、その対策	遠藤日雄	全国林業改良普及協会	
	84	木材建材ウイークリー		日刊木材新聞社	
	85	木質エネルギービジネスの展望	熊崎 実	全国林業改良普及協会	
	86	林業改良普及双書 No.149 森林バイオマス 最前線	大場龍夫	全国林業改良普及協会	

分野	No.	著書	著者	出版社	備考
木材	87	木質バイオマス事業 林業地域が成功する条件とは何か	相川高信	全国林業改良普及協会	
	88	顔の見える木材での家づくりグループ 65選(2011年版)		木構造振興株式会社	*
	89	最新データによる木材・木造住宅Q&A		木構造振興株式会社	*
安全	90	林業労働安全衛生推進テキスト	小林繁男、広部伸二	全国林業改良普及協会	
	91	林業における安全衛生推進者必携 ー能力向上教育用テキストー		林材業労働災害防止協会	◎
	92	伐木造材業務従事者必携 ー安全衛生教育用テキストー		林材業労働災害防止協会	
	93	森林土木事業における労働災害事例集		全国森林土木建設建設協会	
	94	伐木造材のチェーンソーワーク	石垣正喜・米津 要	全国林業改良普及協会	
	95	刈払機安全作業ガイド ー基本と実践ー	石垣正喜	全国林業改良普及協会	
	96	図解チェーンソーワーク入門	石垣正喜	全国林業改良普及協会	
	97	小田桐師範が語るチェーンソー伐木の極意	小田桐久一郎	全国林業改良普及協会	
	98	森林土木事業における労働災害事例集		全国森林土木建設協会	*
	99	危険をよみ、災害の芽をつむ リスクアセスメントを進めよう 林業編		林材業労働災害防止協会	*
	100	林業現場人 道具と技 Vol.15 特集 難しい木の伐倒方法	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	
101	林業現場人 道具と技 Vol.16 特集 安全・正確の 追求ー欧州型チェーンソーの伐木教育法	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会		
環境	102	エコシステムマネジメント ー包括的な生態系の保全と管理へー	森 章 編集	共立出版	
	103	猛禽類保護の進め方 (特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて)	環境省	日本鳥類保護連盟	
	104	オオタカの営巣地における森林施業 「前橋営林局編」	日本森林技術協会	日本森林技術協会	
	105	エゾシカの保護と管理	梶 光一 他	北海道大学出版会	
	106	森林における野生生物の保護管理	藤森隆郎・油井正敏・石井信夫	日本林業調査会	*
	107	オオタカの営巣地における森林施業2 「関東森林管理局編」	日本森林技術協会	日本森林技術協会	*
	108	希少猛禽類保護の現状と新しい調査法	阿部 學	技術情報協会	*
コミュニケーション	109	ファンリテーション革命 「参加型の場づくりの技法」	中野民夫	岩波書店	
	110	ファンリテーション入門	堀 公俊	日本経済新聞出版社	
	111	ワークショップ入門	堀 公俊	日本経済新聞出版社	
	112	ワークショップ 新しい学びと創造の場	中野民夫	岩波新書	
	113	KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション	川嶋 直	みくに出版	
	114	プロが教える実践ノウハウ 集合研修とOJTのつくり方	川嶋 直+川北秀人 編著	全国林業改良普及協会	
月刊誌	115	現代林業		全国林業改良普及協会	
	116	林業新知識		全国林業改良普及協会	
	117	森林技術		日本森林技術協会	
	118	機械化林業		林業機械化協会	
その他	119	林業改良普及双書 No.183 林業イノベーションー林業と社会の豊かな関係を目指して	長谷川尚史	全国林業改良普及協会	
	120	平成25年度 森林・林業の動向(平成26年5月公表)	林野庁	林野庁ホームページ	
	121	日本は森林国家です 産業界からのアプローチ	米田雅子・JAPIC 編著	ぎょうせい	
	122	業務で使う林業QGIS 徹底使いこなしガイド	喜多耕一	全国林業改良普及協会	
	123	対談集 人が育てば、経営が伸びる。 林業経営戦略としての人材育成とは	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	
	124	「木の駅」軽トラ・チェーンソーで 山も人もいきいき	丹羽健司	全国林業改良普及協会	
	125	New自伐型林業のすすめ	中嶋健造 編著	全国林業改良普及協会	
	126	森林工場への道 儲かる林業をめざして	石原猛志	清文社	*
	127	林業改良普及双書 No.185 「定着する人材」育成手法の研究 ー林業大学の地域型教育モデル	全国林業改良普及協会 編	全国林業改良普及協会	
	128	林業改良普及双書 No.186 椎野先生の「林業ロジスティクスゼミ」 ロジスティクスから考える林業サプライチェーン構築	椎野 潤	全国林業改良普及協会	
	129	「読む」植物図鑑 樹木・野草から森の生活文化まで Vol.3・Vol.4	川尻秀樹	全国林業改良普及協会	
	130	「複合林産型」で創る国産材ビジネスの新潮流 ー川上・川下の新たな連携システムとは	遠藤日雄	全国林業改良普及協会	

用語解説

管理と監理

管理とは、「とりしきること。良い状態を保つように処置すること。事務を経営し、物的設備の維持・管轄をなすこと。」

監理とは「とりしまり。監督・管理すること。業務などを指示したり指導したりして取り締まること。」

基幹路網、細部路網、作業路網

路網は、物流量、使用形態などから、幹線となる道、個々の事業地での作業に使用される道、両者を結ぶ道で構成され、従来から葉脈に例えられる。これらの道の整備は、効率的かつ安定的な森林経営の基盤づくりを進める上で、路網を構成するそれぞれの道が、木材の生産や輸送距離等を勘案してバランス良く配置されることが重要である。

管柱、正角

管柱(くだばしら)とは、木造建築で土台から軒まで1本の柱で通さず、梁・桁(けた)などの横架材で継いだ柱のこと。通常の管柱の寸法は、材長3mで10.5cm(3寸5分)または12cm(4寸)の正角材。対語は通柱(とおしばしら)で、土台から軒桁まで1階・2階を1本で使用する柱。正角(しょうかく)とは、断面の一辺の長さが7.5cm以上の正方形の角材のことで、主に柱、土台、大引などに使われる。

屈曲線形

林道の屈曲部は、走行車両の安全性、迅速性及び快適性などを満足させるため、原則曲線形としている。林業専用道は、土工量及び構造物の低減や森林作業道とのアクセス等を考慮し、より地形に追従した線形をとることが求められる。屈曲線形は、このように水平方向において地形追従を志向するための考え方である。

公益的機能別施業森林

森林の有する公益的機能の種類に応じて、その維持増進を特に図るための施業を推進すべき森林であり、市町村森林整備計画においてその区域及び森林施業の方法が定められる。

公共建築物等木材利用促進法

国が整備する低層の公共建築物について、原則として全て木造化、内装等の木質化、備品等への木材利用を行うことを定めた法律。さらに、地方公共団体や民間の一般建築物への木材利用の拡大を促進し、木材の利用確保を通じて林業の発展や森林の整備等に寄与することを目的としている。

サプライチェーン

原材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る、製品・サービス提供のために行われるビジネス諸活動の一連の流れのこと。

生態系サービス

生物多様性がもたらす恵みは「生態系サービス」と言われ、①食料、水、木材、繊維、遺伝子資源などを「供給」するサービス、②気候、洪水、疾病、水質を「調整」するサービス、③レクリエーション、精神的充足感などの「文化的」サービス、④土壌形成、花粉媒介、栄養塩循環などのように他の生態系サービスの「基盤」となるサービスに分類される（国連「ミレニアム生態系評価」）。

生物多様性が損なわれれば、私たちが享受できる生態系サービスのレベルが低下し、ひいては将来にわたる暮らしの基盤を失うこととなる。森林・林業政策においては、「森林の有する多面的機能」として整理されてきた概念と同義であるが、森林の有する多面的機能が、本来的に森林が果たしている役割であるとすれば、「生態サービス」はむしろ人間の側に立ち、人類が生態系から得ることのできる便益というように解される。

車道幅員、路肩幅員

車道の幅員は、設計車両の最大幅を基本として、これに走行上必要な余裕幅を加えたものである。林業専用道の場合は、設計車両を普通自動車としているので、普通自動車の最大幅2.5mに余裕幅0.5mを加えた3mを車道幅としている。これに路肩（車道を保護し、効用を保つために車道に接して設ける帯状の部分で、片側0.25m、必要に応じて0.5mまで増加することができる。）を加えた3.5mが林業専用道の全幅員の標準値である。

商流、物流

商流とは、商品の売買によるその商品の所有権や代金の決済などの流れのこと。物流とは、生産物を移動あるいは保管すること。木材製品の流通においては、従来、丸太を山元から原木市場等に輸送し仕分け保管し、それを市売りなどで製材工場等に販売していた。この流れでは商流と物流がいわば一致していたが、近年は木材価格の低迷などから並材以下の取引などにおいて、山元から市場等が仲立ちして製材工場に販売という商流で、物流（丸太）は山元から製材工場に直送するといった商流と物流を分離して流通の効率化を図ろうという動きが見られる。

順応的管理

不確実性を伴う対象を取り扱うための考え方・手法で、野生生物や生態系の保全管理に用いられる。生物の多様性が科学的に解明されていない要素が多くあることを十分認識した上で、不確実性を減らすための調査研究に取り組むとともに、当初の予測どおりとならない事態も起こり得ることを、あらかじめ管理システムに組み込み、常にモニタリングを行いながらその結果に合わせて対応を変えるような柔軟な管理手法。例えば、針葉樹人工林において針広混交林への誘導を目的として受光伐を行う場合、伐採後に広葉樹の侵入が成功するかは不確実な事象であり、事業（受光伐）完了後の検証を通じて、必要に応じてフィードバックを行うなどの一連の対応。

森林の機能の評価（H、M、L）

地域森林計画の樹立に必要な資料として、森林の有する諸機能の評価基準に基づいて森林の機能発揮の可能性の大きさ（ポテンシャル）について、H（高い）、M（中位）、L（低い）の3段階で相対的に評価区分したもの。

施業の受委託、森林経営の受委託

後者は、森林所有者と森林組合や林業事業者等との間で森林施業及び保護の実施について5年以上の期間の受委託契約を行うことにより、森林組合等が森林経営計画を作成することができる。

前者は、単に施業の受委託であり、契約があっても森林経営計画は作成できない。

先進的な林業機械

森林・林業再生プランでは、林業経営・技術の高度化の方策の1つとして「先進的な林業機械の導入・改良や効率的な作業システムの構築・普及・定着」が課題とされた。

その背景には、我が国の森林の整備や木材生産の効率が低く、林業経営の採算性が低い一因となっていることから、欧州で既に普及しているような、既存の高性能林業機械と比較して格段に高い性能を有する林業機械を中心とした作業システムの導入が必要との考えがあった。これを受けて、平成22年度に全国の11事業体を対象として、高出力の動力機構、洗練された操作系や自動運転機構、高い機動性など先進的な機能を持った林業専用機械が補助事業により導入された。同事業の詳細は、先進林業機械を活用した作業システム構築の取組事例集「先進林業機械による日本林業のブレークスルー」(ダウンロードサイトhttp://ri-nc.co.jp/news/news_20110428_0171.html)を参照のこと。

短伐期林、長伐期林

短伐期林とは、伐期齢が短い施業を行う森林を指し、長伐期林とは伐期が長い施業を行う森林を指す。伐期が短い、長いというのは相対的なものであり、我が国では、例えばスギでは40～50年以下で主伐するものを短伐期と呼んでいる。

特定広葉樹育成施業

市町村森林整備計画で定める保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林において、特に、風致の優れた森林の維持又は造成のために特定の樹種の広葉樹を育成する森林施業を行うものとして定めるもの。

土構造物

土石(土砂、石礫を含む。)を主要な材料とした盛土あるいは切土等によってつくった構造物のこと。林業専用道作設指針は、地形追従と土構造を基本とし、構造物の設置は必要最小限としている。なお、地形・地質に応じて構造物を計画する場合は、経済比較を行いながら技術合理性に従って判断することが必要である。

波形勾配

林業専用道は、土工量及び構造物の低減や森林作業道とのアクセス等を考慮し、縦断勾配を地形に追従させ、緩やかに変化させることにより、路面上の雨水を速やかに排水させることとしている。波形勾配は、このように垂直方向において地形追従を志向するための考え方である。

のり面勾配

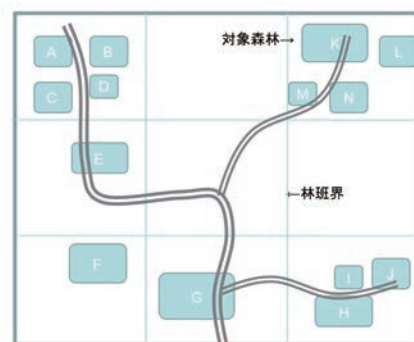
林道等ののり面においては、垂直高さを1とした場合の、水平距離によって勾配を表示する。例えば、盛土のり面の場合、のり面の垂直高さ1mに対して、のり面の底部の水平距離が1.2mの場合は、図面には1:1.2と表示し、1割2分勾配と呼ぶ。

標準伐期齢

樹木の平均成長量が最大となる年齢を基準に、森林の持つ公益的機能や従来の平均伐採齢を勘案し民有林では市町村森林整備計画において樹種ごとに定められるもの。主伐時期の指標として用いるものであり、当該林齢での主伐を促すものではない。

ぶどうの房

森林施業計画の団地性を判断する上で、施業対象森林に到達するための道路をぶどうの茎、施業対象森林をその果実に例えると、その配置が「ぶどうの房」状に見えることからこう表現している。



*自動車で1時間以内にある対象森林を1つの団地とみなす

指さし呼称

危険予知活動の一環として、信号や作業対象、安全確認などの目的で指差しを行い、その名称や状態を声に出して確認すること。例えば、①目で見て、②腕を伸ばして指で指して、③口を開き声に出して「〇〇〇、ヨシ!」、④耳で自分の声を聞く。ミスや労働災害の発生確率を格段に下げることが証明されている。

ヤング係数

物質の変形のし難さを表す係数。数字が大きいほど成形し難い。木材では曲げによって測定する曲げヤング係数が用いられることが多い。JAS規格の機械等級区分法では、曲げヤング係数に基づいて強度等級区分を行うが、これはヤング係数と木材の強さとの間に密接な関係があることによるもの。

ライフサイクルコスト

製品が環境に与える影響を評価する手法の一つ。資源の採取から製造、輸送、使用、廃棄、再利用など全ての段階を通して製品が環境に与える影響・負荷を定量的、客観的に評価する。

KD材

KD材(kiln-dried lumber)とは、人工乾燥した製材品のことで、適正な温度、湿度、風速を人為的に木材に与えることで乾燥してゆく。人工乾燥することで比較的短時間で乾燥でき、天然乾燥中に発生しやすい割れなどを防ぐことができる。乾燥材は住宅部材としても反り、曲がり、割れが生じにくいためにクレームがほとんどないため、近年、使用量が急増している。なお、天然乾燥した製材のことをAD材(air-dried lumber)、未乾燥材をグリーン材という。

KY活動

KY活動とは、危険(Kiken)予知(Yochi)のローマ字表記の頭文字をとったもので、危険予知活動ともいわれている。危険予知とは、作業をする仲間同士で、あるいは一人ひとりが作業の中にひそんでいる危険を危険と気づくこと。危険予知のやり方の一つとして、毎朝、作業現場において、危険に気づくための話し合い「危険予知ミーティング」を行って、作業員全員で当日の作業で危険が予想される点に意見を出し合い危険事項を確認し、安全注意事項を決め、一人ひとりが実践する活動のことである。

PDCA

事業活動における生産管理や品質管理などの取り組みを円滑に進める手法で、観察、方向、決定、行動といった回転アプローチの1つ。Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、取り組みを継続的に改善する。例えば、10年間の計画を5年ごとに見直す森林計画もその1つ。

森林総合監理士（フォレスター）基本テキスト

発行日 2019年5月31日
